

**ドイツ語（初級 A） 第 13 回 従属の接続詞**

範囲：教科書第 8 課 C（S. 34-35）

**《今回の基本例文》**

46. Ich kann keine Ferienreise machen, weil ich sparen muss. (CD48-2)

私は節約しなければならないので、休暇の旅行はできない。

[従属の接続詞を用いた副文（主文先頭型）]

47. Wenn du es mir morgen zurückgibst, leihe ich dir das Buch. (CD49-3)

明日に返してくれるなら、私は君にその本を貸すよ。

[従属の接続詞を用いた副文（副文先頭型）]

48. Wissen Sie, wer der Herr da ist? (CD50-1)

そこにおいでの方の紳士がどなたか、あなたをご存じですか？

[間接疑問文]

**I 従属の接続詞**

**C. 従属の接続詞 (S. 34)**

**1 従属の接続詞**

◇ ドイツ語でも英語と同じく、**名詞節、副詞節、関係代名詞節**などの**副文**が存在し、名詞節と副詞節は**従属の接続詞**に、関係代名詞節は関係代名詞（⇒教科書 S. 60）に導かれる。

\* 言うまでもなく、接続詞には並列の接続詞（⇒教科書 S. 25）と従属の接続詞がある。

◇ 従属の接続詞としては、以下のものを覚える必要がある。

| 機能  | 従属接続詞   | 英語               | 意味          |
|-----|---------|------------------|-------------|
| 副詞節 | als     | when             | ～したとき       |
|     | bevor   | before           | ～する前        |
|     | bis     | till, until      | ～するまで       |
|     | da      | because, since   | ～する以上       |
|     | damit   | so that          | ～するように      |
|     | indem   | while            | ～しながら       |
|     | obwohl  | though, although | ～にもかかわらず    |
|     | sobald  | as soon as       | ～するや否や      |
|     | während | while            | ～するあいだ      |
|     | weil    | because          | ～するので       |
| 名詞節 | wenn    | when, if         | ～するとき、～するなら |
|     | dass    | that             | ～すること       |
|     | ob      | if, whether      | ～するかどうか     |

◇ dass と ob は**名詞節**を導く。dass 節 (「～すること」、that 節に相当) や ob 節 (「～するかどうか」、if 節や whether 節に相当) は、名詞と同じく文全体の主語や目的語になりうる。

◇ それ以外のすべては**副詞節**を導く。

・理由をあらわす副詞節を導く従属の接続詞には da と weil があるが、da は聞き手も知っている理由を言うのに対し、weil は一般に論理的な因果関係を言う。

・時をあらわす副詞節を導く従属の接続詞には als と wenn があるが、現在および未来には wenn を、過去には als を用いる。wenn の場合、「～するならば」という条件文 (if 節に相当) もつくる。

## ■ 従属の接続詞を用いた副文の語順

**定動詞後置**の原則 = 定動詞を副文末に持ってくる

◇ 従属の接続詞を用いた副文では、定動詞は文末に置かれる。このため、主語－目的語－動詞という、日本語に近い語順が現れる。図示すれば、

| 文頭  | 文中 | 文末          |
|-----|----|-------------|
| 接続詞 | …  | 動詞 (現在人称変化) |

◇ 主文を副文に転換すると、以下の通りになる。

Er spricht Deutsch.

彼はドイツ語を話す。

→ Weil er Deutsch spricht,

彼はドイツ語を話すので、...

\* 定動詞を副文末に移動する。

Er kann Deutsch sprechen.

彼はドイツ語を話すことができる。

→ Weil er Deutsch sprechen kann,

彼はドイツ語を話すことができるので、...

\* 語法の助動詞を含む文の場合、定動詞である助動詞を副文末に移動すればよい。

◇ 副文内の定動詞が分離動詞である場合、分離動詞も文末に移動するが、

- ・前綴りと基礎動詞は分離せず一続きに書く。
- ・基礎動詞は主語に合わせて人称変化する。

Er bringt eine Flasche Wein mit.

彼はワインを 1 ビン持ってくる。

→ Weil er eine Flasche Wein mitbringt,

彼はワインを 1 ビン持ってくるので、...

\* ここで mit と bringt のあいだにスペースを入れてはいけない。

◇ これまで登場した語順を整理すると、

|                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| <b>主文</b>         | 定動詞第 2 位：定動詞は 2 番目に。 |
| <b>主文 (決定疑問文)</b> | 定動詞第 1 位：定動詞は 1 番目に。 |
| <b>副文の内部</b>      | 定動詞後置：定動詞は副文末に。      |

■ 主文と副文の位置関係

文全体 (=主文) : 定動詞第 2 位

副文 : 文の 1 要素 (名詞節なら 1 つの名詞、副詞節なら 1 つの副詞) として扱う

- ◇ 副文を含んだ文の場合、文全体 (=主文) に副文を組み込むかたちとなる。そのとき、
  - ・名詞節 : 名詞 1 つと同じ
  - ・副詞節 : 副詞 1 つと同じ
  - ・文全体 (=主文) では定動詞第 2 位の原則が働く

という扱いになる。

- ◇ 副文とそれ以外の部分は読点 (,) で区切るのが普通。

《名詞節の副文を用いた文全体の語順》

第 2 位

|    |     |      |    |                          |
|----|-----|------|----|--------------------------|
| 主語 | 定動詞 | ,    | 副文 | (名詞節が目的語である場合)           |
| 副文 | 定動詞 | 目的語  |    | (名詞節が主語である場合)            |
| Es | 定動詞 | 目的語, | 副文 | (名詞節が主語で、仮主語 es を使用する場合) |

\* いずれも副文の内部では定動詞後置。

- ◇ 名詞節の副文を目的語とする文は、副文を文末におけばよい。

Ich glaube, dass er Deutsch spricht.

私は、彼はドイツ語を話すと思う。

\* glaube が文全体の定動詞、spricht が副文 (dass 節) の定動詞。dass er Deutsch spricht が文全体の目的語で、名詞 1 つと同じ扱い。

\*\* glauben は他動詞「(4 格) を信じる」だが、ich glaube, dass ...は I think that ...のように使われる。

- ◇ 名詞節の副文を主語とする文で、主語を文頭に出した場合、第 2 位にはもちろん文全体の定動詞が来る。

i) Dass du endlich kommst, freut mich sehr.

君がとうとう来てくれることが、非常に私を喜ばせる。

\* freut が文全体の定動詞、kommst が副文 (dass 節) の定動詞。Dass du endlich kommst が文全体の主語で、名詞 1 つと同じ扱い。

\*\* freuen は他動詞「(4 格) を喜ばせる」。

- ◇ ただし、名詞節の副文を主語とする文では、副文を先取りする仮主語 es を用い、名詞節自体はうしろにまわすこともできる (英語の仮主語 it と同じ)。 (⇒教科書 S. 67)

i) Dass du endlich kommst, freut mich sehr.

= i) Es freut mich sehr, dass du endlich kommst.

君がとうとう来てくれることが、非常に私を喜ばせる。

\* 下の文 (教科書 S. 35 の例文 i) の本来の主語は、dass du endlich kommst という名詞節にあたる。

\*\* 長い名詞節であればあるほど、仮主語を用いる文体が好まれる。

《副詞節の副文を用いた文全体の語順》

第 2 位

主語            定動詞            …            ,            **副文**            (副文を文のうしろにまわす場合)  
**副文**            ,            定動詞 主語            …            (副文を文頭に出す場合)

\* いずれも **副文** の内部では定動詞後置。

◇ **副詞節**の副文を文のうしろにまわす場合は、単に文全体と副文を読点で区切れればよい(英語と同じ)。

ii) Er wohnt auf dem Land, **weil** es dort ruhig ist.

彼は田舎に住んでいる、そこは静かだから。

\* wohnt が文全体の定動詞、ist が副文 (weil 節) の定動詞。weil es dort ruhig ist 全体が副詞 1 つと同じ扱い。

\*\* es は音などを示すときの主語。英語の it と同じ。 (⇒教科書 S. 58)

iii) Ich schreibe dir sofort, **wenn** ich in Paris ankomme.

君にすぐに手紙を書くよ、私がパリに着いたら。

\* schreibe が文全体の定動詞、ankomme が副文 (wenn 節) の定動詞。wenn ich in Paris ankomme 全体が副詞 1 つと同じ扱い。

\*\* この schreiben は自動詞で、「(3 格) に手紙を書く」。

\*\*\* ankomme には、「副文内の定動詞が分離動詞である場合、前綴りと基礎動詞は分離せず一続きに書く」規則が適用されている。

◇ 一方、**副詞節**の副文を文頭に出す場合、副詞 1 つが文頭にきたのと同じことになるので、第 2 位には文全体の定動詞を持って来なければならない。

Wir bleiben zu Haus, **wenn** es regnet.

= **Wenn** es regnet, bleiben wir zu Haus.

雨が降るならば、私たちは家にいます。

\* bleiben が文全体の定動詞、regnet が副文の定動詞。wenn es regnet 全体で副詞 1 つと同じ扱い。

\*\* es は天候、気象を示すときの主語。英語の it と同じ。regnen は英語の rain。 (⇒教科書 S. 57)

## 2 間接疑問文 (S. 35)

◇ 英語と同じく、ドイツ語でも疑問詞を用いた**間接疑問文**をつることができる。ただし、間接疑問文は名詞節であり、副文なので、その語順は定動詞後置となる。

\* 使用可能な疑問詞のまとめは、授業第 3 回配付資料 S. 8 を参照。

◇ 単なる疑問文を間接疑問文に転換すると、以下のようになる。

### Was ist er von Beruf?

彼はどんな職業についているのですか (=彼は職業に関して何者ですか)。

\* 単なる疑問文 (主文) では、定動詞 *ist* の位置は第 2 位。

\*\* *von Beruf* は「職業に関して」の意味。

→ Ich weiß nicht, **was** er von Beruf ist.

私は知らない、彼がどんな職業についているのかを。

\* 間接疑問文 (副文) では、*ist* の位置は定動詞後置。こちらの主文は *ich weiß nicht...* になる。*wissen* の変化形は教科書 S. 29 を参照。

### Wo wohnt Fritz jetzt?

フリッツはいまどこに住んでいるんですか。

\* 単なる疑問文 (主文) では、定動詞 *wohnt* の位置は第 2 位。

→ Ich weiß nicht, **wo** Fritz jetzt wohnt.

私は知らない、フリッツがいまどこに住んでいるのかを。

\* 間接疑問文 (副文) では、定動詞 *wohnt* の位置は後置。同じく主文は *ich weiß nicht...* になる。

◇ 前置詞と疑問代名詞の融合形や前置詞 + 疑問代名詞 (⇒教科書 S. 27) も、間接疑問文に変換することができる。

### Womit fährst du?

君は何に乗って行くんですか。

→ Ich weiß nicht, **womit** du fährst.

私は知らない、君が何に乗って行くのかを。

### Mit wem fährst du?

君は誰と行くんですか。

→ Ich weiß nicht, **mit wem** du fährst.

私は知らない、君が誰と行くのかを。

\* なお、決定疑問文を間接疑問文にする場合、*ob* 節 (英語の *if* 節にあたる) を用いることになっているが、これはいまは覚えなくてよい。

Spricht er Deutsch?

→ Ich weiß nicht, ob er deutsch spricht.

**練習問題の補足**

**Übung 1** (S. 35)

1. Schluss machen は「(仕事などを) 終わりにする」の意味の熟語。um Mittag の um は時刻を表す用法。(⇒教科書 S. 37)

3. leihen は「〈3 格〉に〈4 格〉を貸す」、zurück|geben は「〈3 格〉に〈4 格〉を返す」。

**Übung 3**

2. **welcher** は「どの、どちらの」をあらわす疑問代名詞で、名詞を修飾する (英語の *which* に相当)。前置詞と併用されることもあり、mit welchem/welcher/welchen ~ で「どの~によって」の意味になる (変化形は *dieser* 型)。(⇒教科書 S. 42)

3. an *jn./et.* denken は既出、「〈4 格〉のことを考える (= *think of*)」。(⇒教科書 S. 28)

**連絡先など**

教員のメールアドレス : [tokan@nifty.com](mailto:tokan@nifty.com) 授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり) : <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>